

環境クリーンセンターの現状と課題について

1 施設の現状と課題

施設の運営維持管理は、平成19年10月から平成34年3月末まで(株)エコクリーン江別に長期包括委託することにより毎年度の経費を平準化し、効率的な運営管理が図られ、安定した稼働が継続されている。

環境クリーンセンターは稼働から14年が経過し、平成34年11月末で、一般廃棄物処理施設の耐用年数である20年が経過することから、今後の施設の方向性を検討する必要がある。

2 施設の概要

竣工	・平成14年11月
供用開始	・平成14年12月1日
施工業者	・三井造船・三井建設・船木共同企業体
処理対象物・処理能力	・燃やせるごみ ガス化溶融方式：140 t /24 h (70 t /24 h ×2 炉) ・燃やせないごみ 1次・2次破碎方式：35 t /5 h
発電機出力 (1基)	・1980 kW
非常用発電機 (1基)	・560 kW
建設費	・約73億円

3 今後の検討内容

今後の施設の方向性について、将来的に廃棄物処理に必要となるコストを環境省策定の「廃棄物処理ライフサイクルコスト算出例」に基づき、現施設を延命化した場合、延命化せずに施設を建替えた場合の経費を算出し、比較検討する。

なお、今後の施設の方向性を検討する中で想定される札幌市へのごみ処理（燃やせるごみ）の委託については、当市に近接する白石清掃工場の焼却量に当面余裕がない状況にあるため、検討から除く。

4 今後のスケジュール（予定）

平成29年9月 施設の方向性の比較（素案）策定

10月 第3回 廃棄物減量等推進審議会：施設の方向性の比較（素案）報告

11月 第4回 廃棄物減量等推進審議会：比較（素案）に対する意見聴取及びパブリックコメント案報告

12月 パブリックコメントの実施

平成30年2月 第5回 廃棄物減量等推進審議会：パブリックコメントへの対応及び施設の方向性の決定、公表